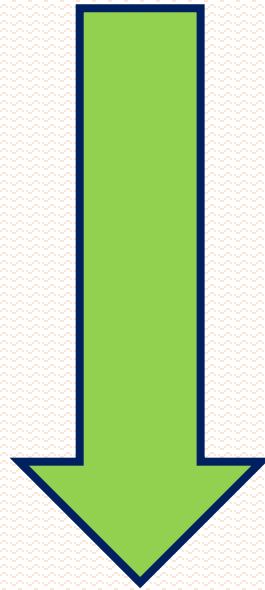


2019年

# 今後の母子保健事業のあり方

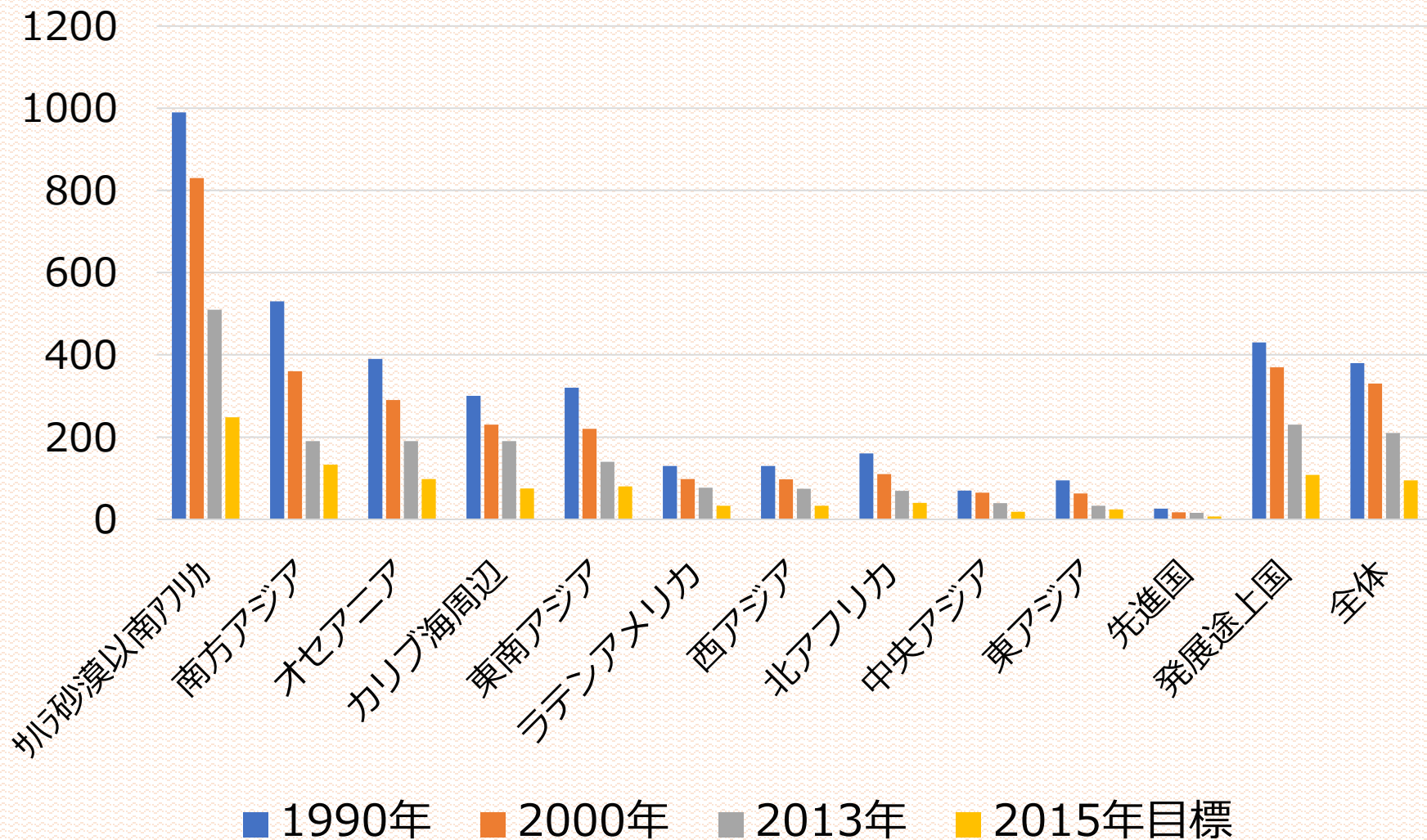
大阪母子医療センター  
副院長 光田信明

妊娠・出産は生理的現象です

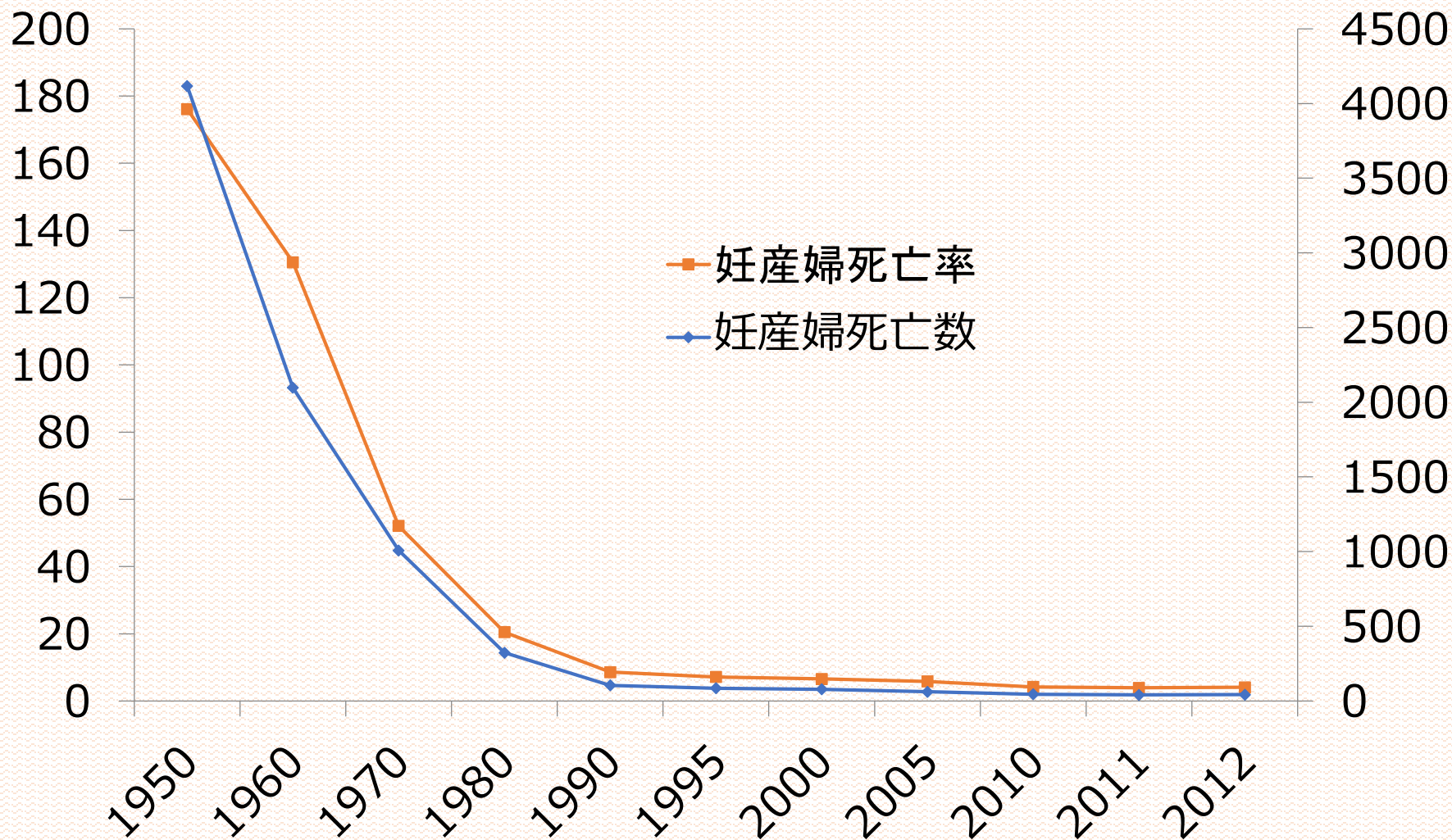


病気ではないので  
自費診療になります

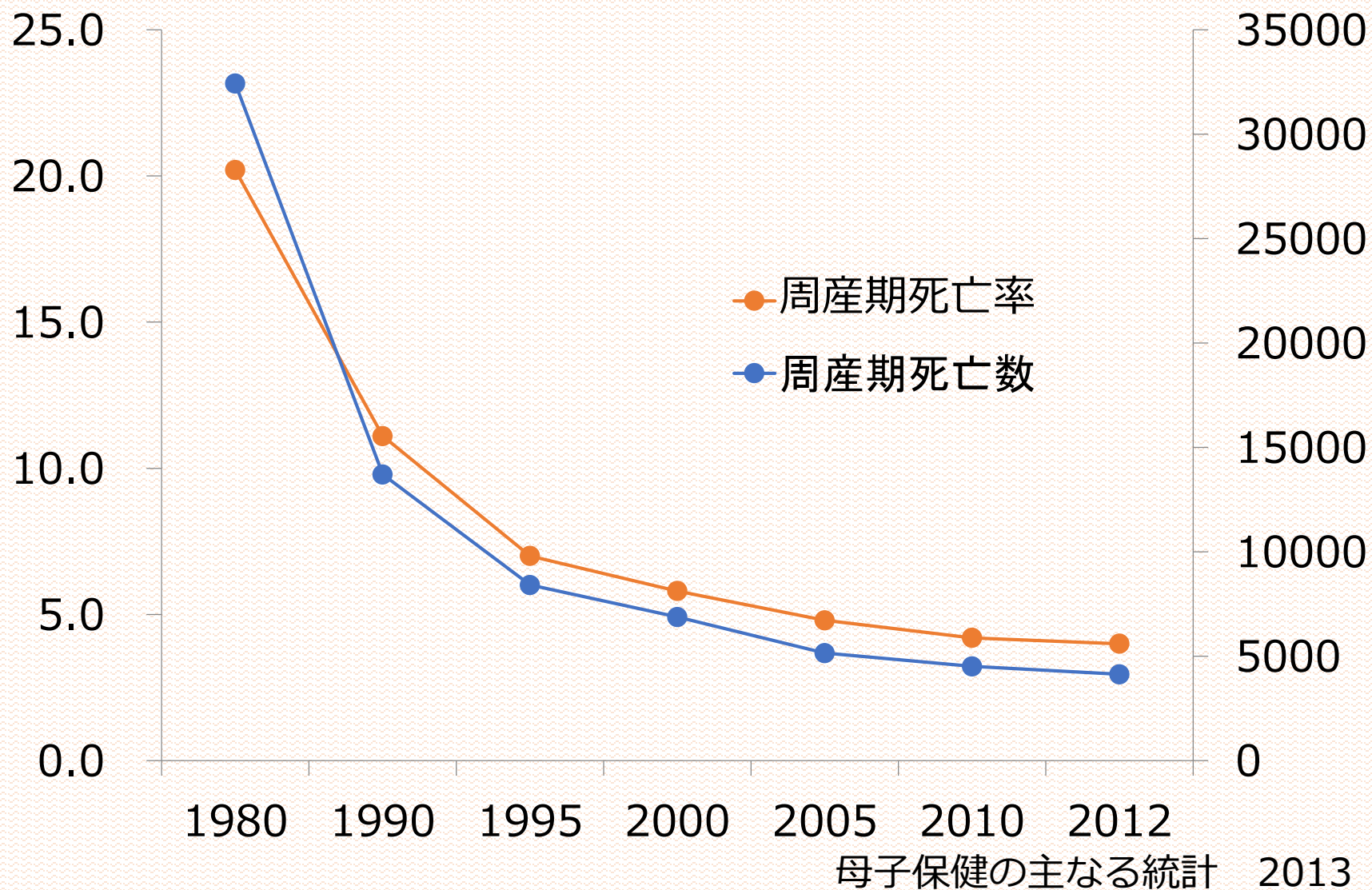
# 世界の妊産婦死亡の推移



# 妊産婦死亡数と妊産婦死亡率の年次推移



# 周産期死亡数と周産期死亡率の年次推移



# 周産期医療の特徴

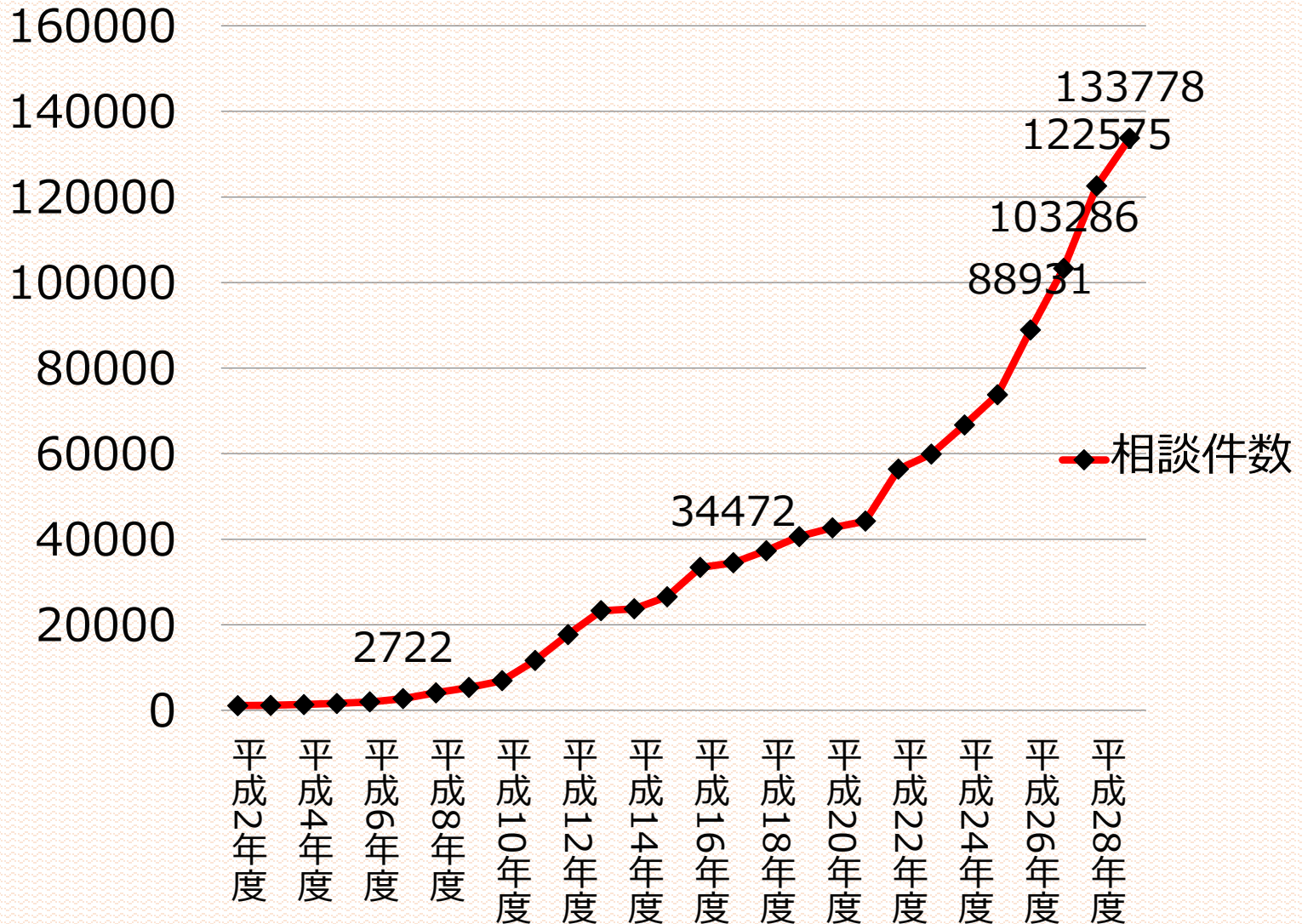
- 健康と思われる母児が患者さんとしてスタートする
- 他科の医師は入り込んでこない
- 正常・異常の区別がつきにくい
- 急激に病気に進行する
- 予測がつきにくい
- 医療人以外の意見がかなり多い
- 民族・歴史によって管理が変わる
- 母児の危険率ゼロには出来ない

周産期医療は  
子育てを  
考えないといけ  
ない  
のでしょ  
うか？

# 周産期医療と 重なる児童虐待

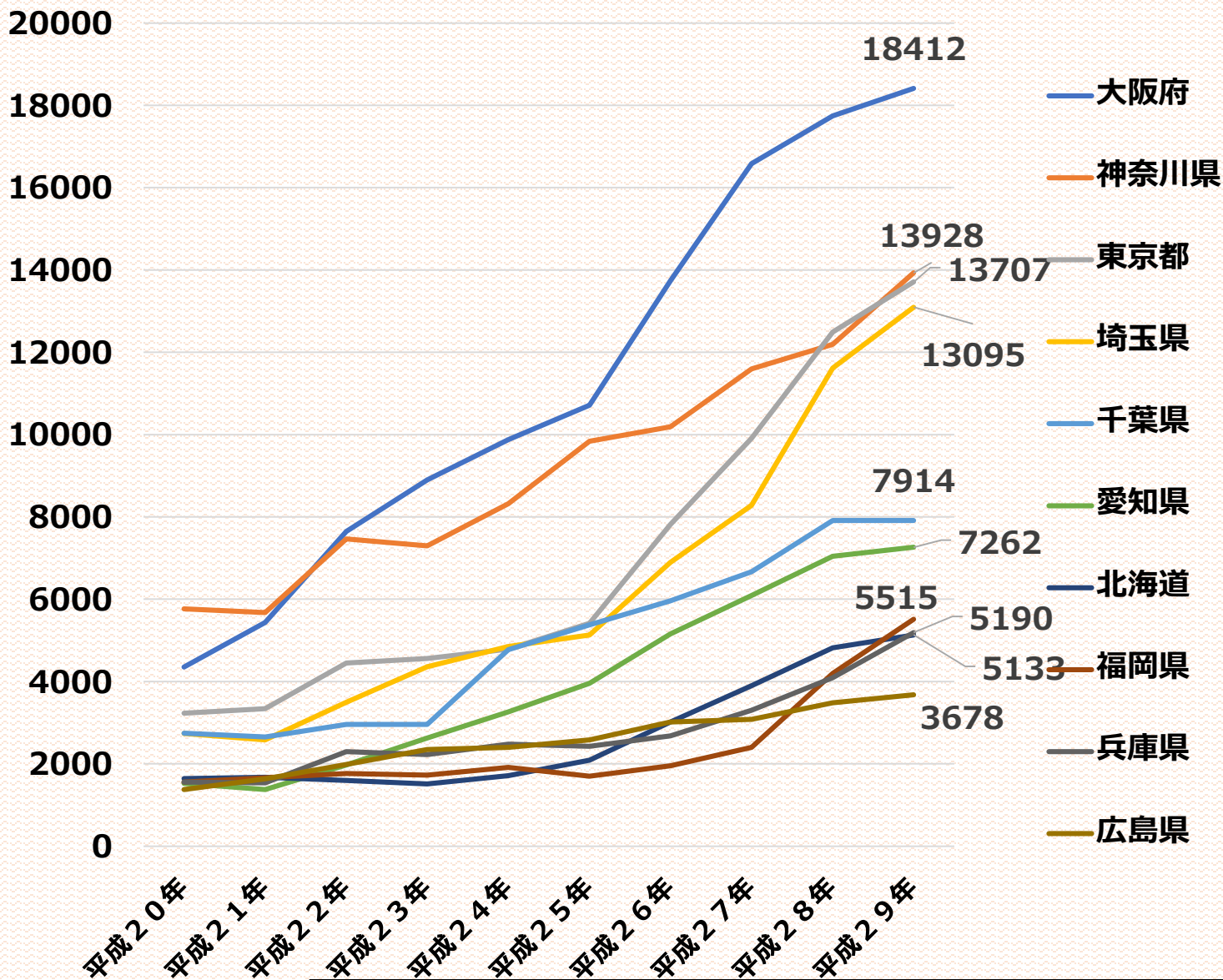


# 児童虐待相談件数の推移



子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について（第14次報告までの累計）

# 児童虐待相談対応件数



子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について（第14次報告までの累計）

# 第1次報告から第14次報告までの 「心中以外の虐待死」総数に対する 0歳児の割合

区分	人数	構成割合
総数	727	100%
0歳	345	47.5%
0か月	159	46.1%
0日	135	84.9%

乳幼児期が  
人間の成育  
には特に大切

# The Bucharest Early Intervention Project

ルーマニア政府の協力

調査機関：Harvard Medical School, Thlane University Health Science Center,  
University of Maryland等米国の機関

遺棄児童の認知力についての研究

【対象・方法】

遺棄児童136人→ 施設群：68人  
里親群：68人

(ブカレストにある6つの施設・31か月以下の児

スクリーニングによって遺伝疾患・FAS・小頭症は除外)

**NIG(施設経験のない、家族と生活する児)：72人**

- ①42ヶ月時点BSID-II (DQ),54ヶ月時点のWPPSI-R(IQ)を調査し、それぞれの群での違いを検討
- ②FCGにおいて、里親に預けられた月齢の違いによってその後のDQ/IQの違いを検討

# BEIPの結果

- 人間の精神的・肉体的(脳)発育は2歳くらいまでに臨界点がある
- 子どもの成育環境には家庭が必要である

# 子どもを健やかに育むために ～愛の鞭ゼロ作戦～

## 体罰・暴言は子どもの脳の発達に深刻な影響を及ぼします。

脳画像の研究により、子ども時代に辛い体験をした人は、脳に様々な変化を生じていることが報告されています。親は「愛の鞭」のつもりだったとしても、子どもには目に見えない大きなダメージを与えているかも知れないのです。

### ●子ども時代の辛い体験により傷つく脳

厳しい体罰で、  
前頭前野が  
いしく  
萎縮



暴言で  
聴覚野が  
変形

- ・厳しい体罰により、前頭前野（社会生活に極めて重要な脳部位）の容積が19.1%減少  
(Tomoda A et al., Neuroimage, 2009)
- ・言葉の暴力により、聴覚野（声や音を知覚する脳部位）が変形  
(Tomoda A et al., Neuroimage, 2011)

提供：福井大学 友田明美教授

## 光田班

厚生労働科学研究費補助金

成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業

「妊婦健康診査および妊娠届を活用した  
ハイリスク妊産婦の把握と効果的な  
保健指導のあり方に関する研究」



今後の母子保健事業

－多職種による切れ目のない連携－

# 周産期医療の課題

- 医学的問題：母体・胎児・新生児の後遺症無き生存
- 設備：周産期母子医療センター設置
- システム：母体・新生児搬送
- 人材：マンパワーの維持
- 社会的ハイリスク妊娠：健やか親子

# 健やか親子21

(第2次)



健やか親子21

健やか親子21(第2次)  
シンボルマーク

## 基盤課題 A

# 切れ目ない妊産婦・乳幼児への 保健対策

妊娠・出産・育児期における母子保健対策の充実に取り組むとともに、各事業間や関連機関間の連携体制を強化します。

また、情報を有効に活用し、母子保健事業の評価・分析体制をつくり、切れ目ない支援ができる体制を目指します。

目標

安心・安全な妊娠・出産・育児のための  
切れ目ない妊産婦・乳幼児保健対策の充実



## 重点課題②

# 妊娠期からの児童虐待防止対策

児童虐待の発生を防止するためには、妊娠期の母親に向けた情報提供等、早期からの予防が重要です。

また、できるだけ早期に発見・対応するために新生児訪問等の母子保健事業と関係機関の連携を強くしていきます。

**目標** 児童虐待のない社会の構築





### 重点課題①

## 育てにくさを感じる親に 寄り添う支援

親子それぞれが発信する様々な育てにくさ\*のサインを受け止め、丁寧に向き合い、子育てに寄り添う支援を充実させることを重点課題の一つとします。

※育てにくさとは、子育てに関わる者が感じる育児上の困難感で、その背景として、子どもの要因、親の要因、親子関係に関する要因、支援状況を含めた環境に関する要因など様々な要素を含みます。育てにくさの概念は広く、一部には発達障害等が原因となっている場合等もあります。

### 目標

親や子どもの多様性を尊重し、  
それを支える社会の構築

## 基盤課題 C

# 子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり

社会全体で子どもの健やかな成長を見守り、子育て世代の親を孤立させないように支えていく地域づくりを目指します。

国や地方公共団体による子育て支援施策に限らず、地域にある様々な NPO や民間団体、母子愛育会や母子保健推進員等との連携を進めていきます。

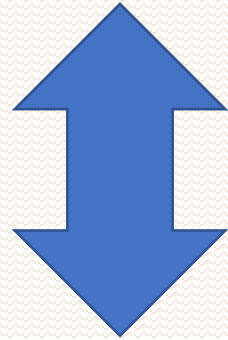
目標

妊産婦や子どもの成長を見守り  
親子を孤立させない地域づくり



# 児童虐待とは？

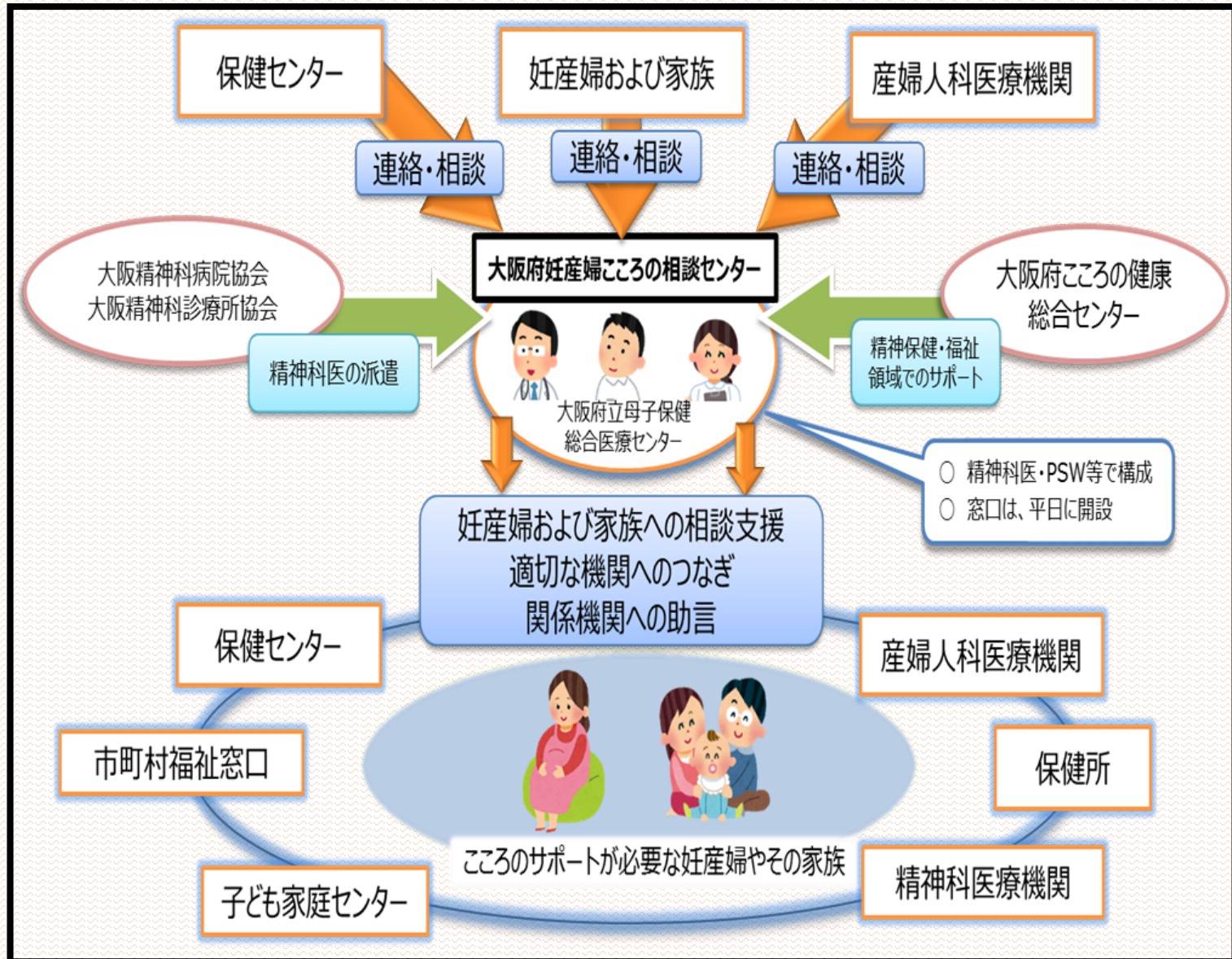
- 古典的：Battered child、Child abuse
- 法律的：身体的虐待・心理的虐待・  
ネグレクト・性的虐待
- マルトリートメント(maltreatment)：  
不適切な養育、愛着障害



妊娠期からの切れ目のない支援  
で関与出来る(目指す)範囲は？



# 大阪府妊産婦こころの相談センター



育児支援



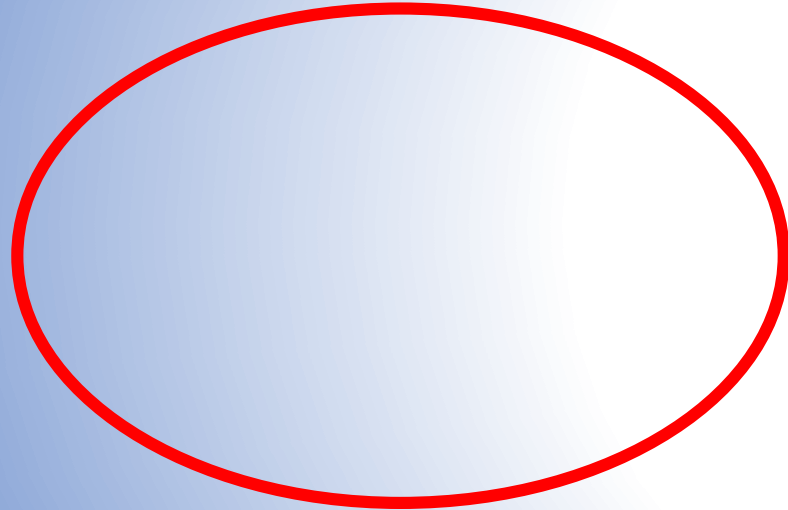
連携

事業のターゲット

妊産婦

精神科救急の  
対象

精神疾患  
合併妊産婦



精神障がい  
障がい福祉

精神疾患  
精神科医療

メンタルヘルス

# 大阪府妊産婦こころの相談センター

## 『ブルーなキモチ』

- 急にイライラする
- なぜだか涙が出てしまう
- 気分が重い
- 食欲がない
- 身体がだるい
- 眠れない
- 子どもが可愛いと思えない
- 何もする気になれない
- 不安がいっぱい

あなたひとりで抱えこまないで

専門の相談員がおはなしをうかがいます  
あなたに必要な支援を一緒に考えます

## 『妊娠中や産後のうつ』をご存知ですか？

妊娠前とちがって、妊娠中や産後には『急にイライラする』『なぜだか涙が出てしまう』など、こころが不安定になることがあります。

また『眠れない』『食欲不振』などの身体の不調についても妊産婦の約半数が経験するといわれています。

こうした状態を「産前・産後うつ」といい、決して珍しいことではありません。ご心配なことがあれば何でもかまいませんので、お気軽にご相談ください。

どんな小さな悩みでもお聞かせください

0725-57-5225

大阪府妊産婦こころの相談センター

～妊娠中、赤ちゃんを子育て中のお母さんへ～

- ◆大阪府妊産婦こころの相談センター（大阪府委託事業）
- ◆相談時間：10：00～16：00（土・日・祝日・年末年始休み）
- ◆妊産婦のご家族、パートナーからの相談も可能です。
- ◆相談内容、個人情報必ず守られますので安心してご相談ください。

母子保健事業は  
医学的な安心・安全  
を目指してきたが、  
パラダイムシフト  
が必要な時期が来ている

周産期医療：妊娠期からの切れ目ない  
育児支援に繋げる

母子保健：医療と福祉を繋ぐ

福祉：防止を目指す

平成30年度厚生労働科学研究費補助金  
成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業  
(健やか次世代育成総合研究事業)

社会的ハイリスク妊婦の把握と  
切れ目のない支援のための保健・  
医療連携システム構築に関する研究  
(30040301)